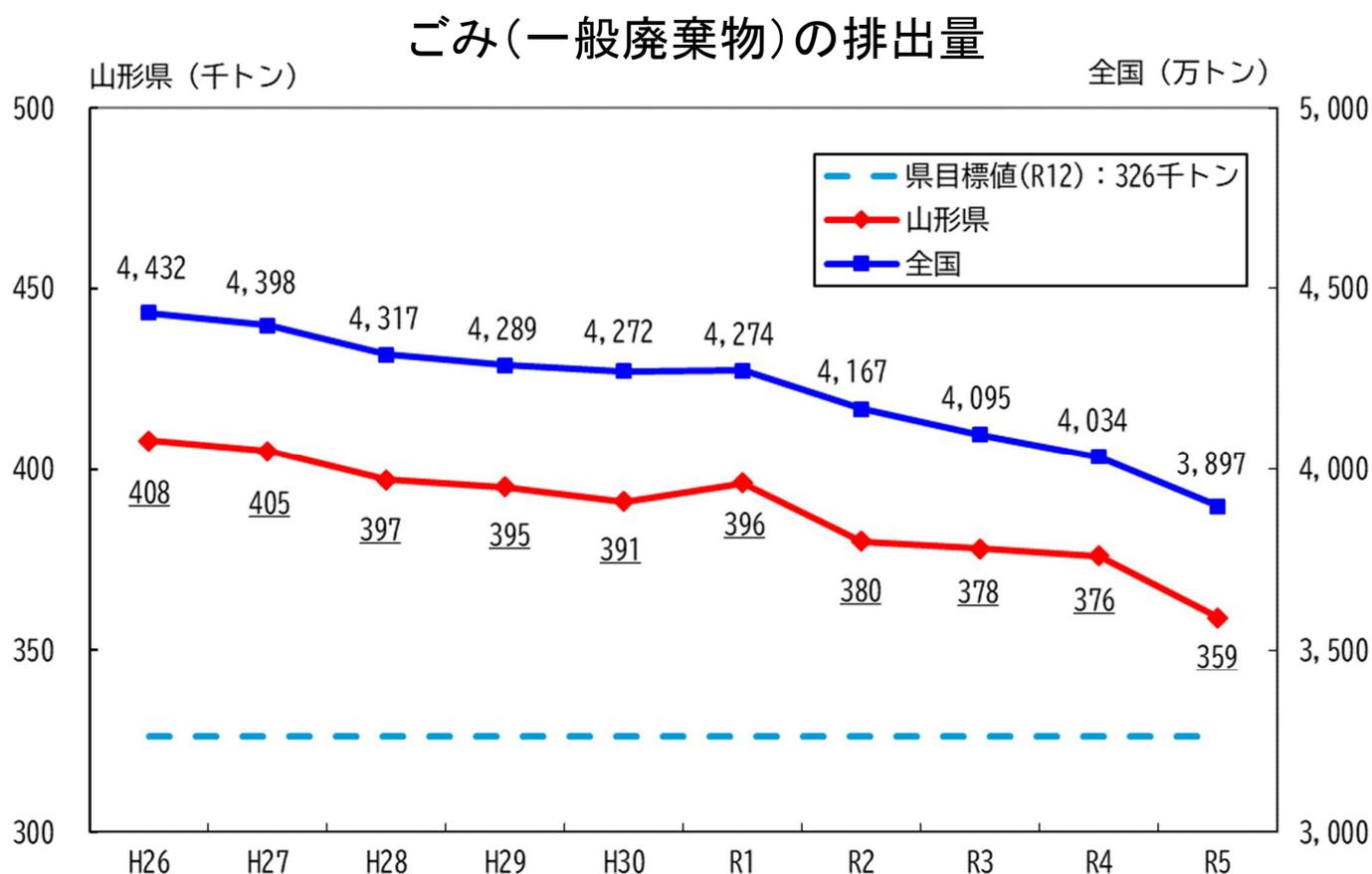
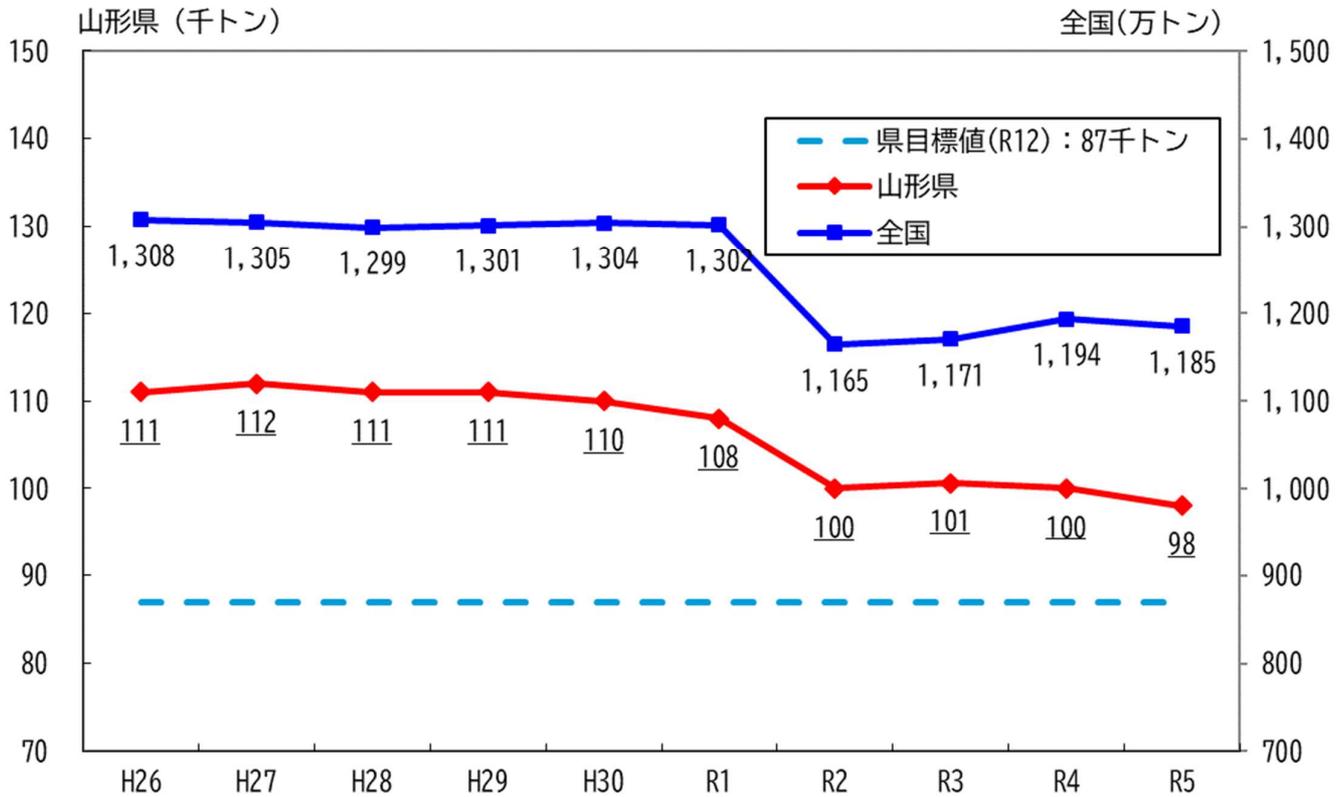


第3次山形県循環型社会形成推進計画 の目標に掲げる基本的数値の現状について



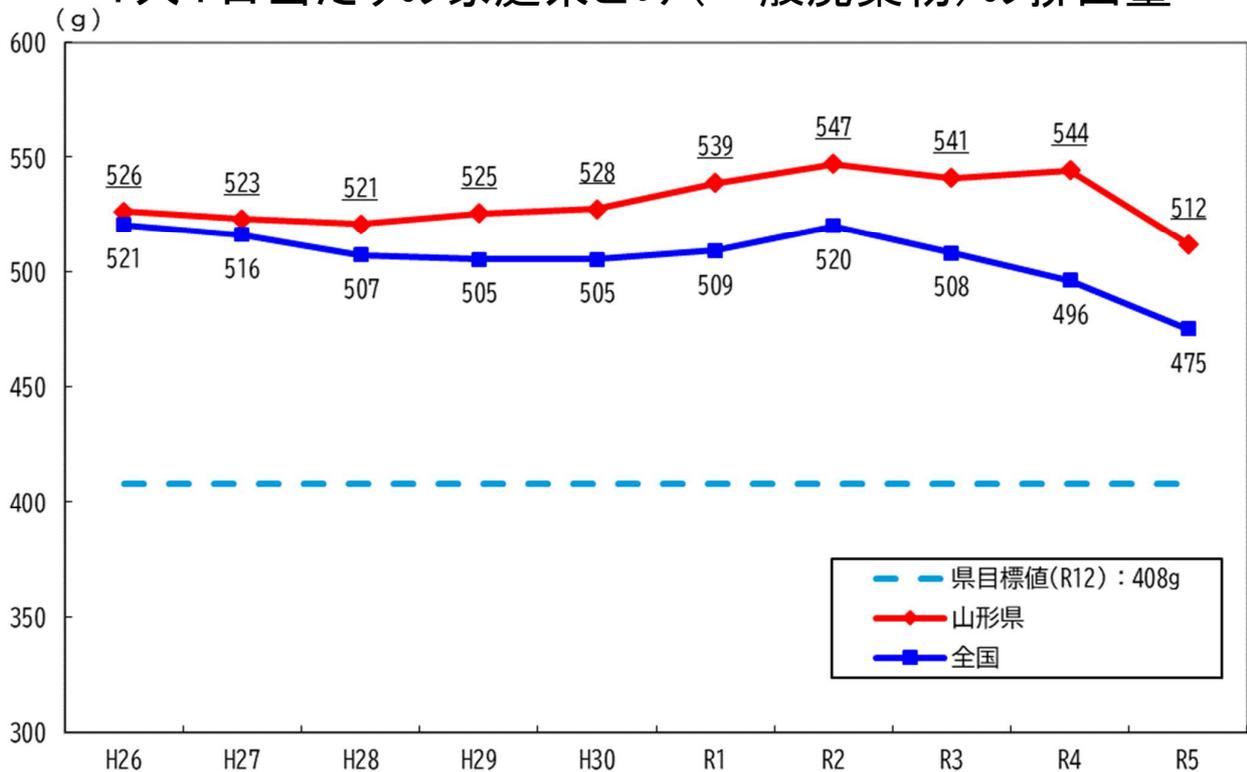
人口減少の影響もあり、長期的に減少傾向にある。

事業系ごみ(一般廃棄物)の排出量



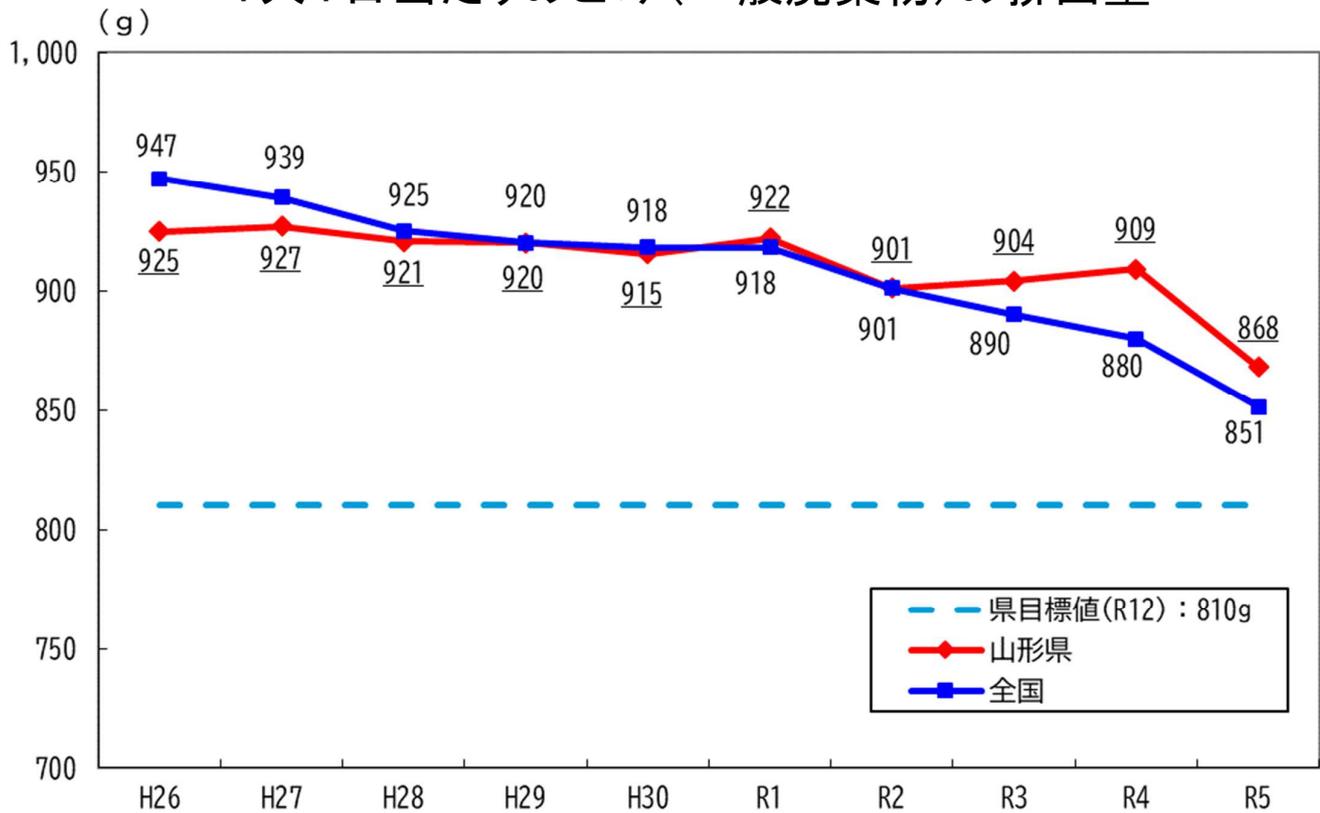
令和2年度はコロナ禍の影響により大きく排出量が減少したほか、長期的にも減少傾向となっており、各事業所におけるごみ削減の取組みの成果が見られている。

1人1日当たりの家庭系ごみ(一般廃棄物)の排出量



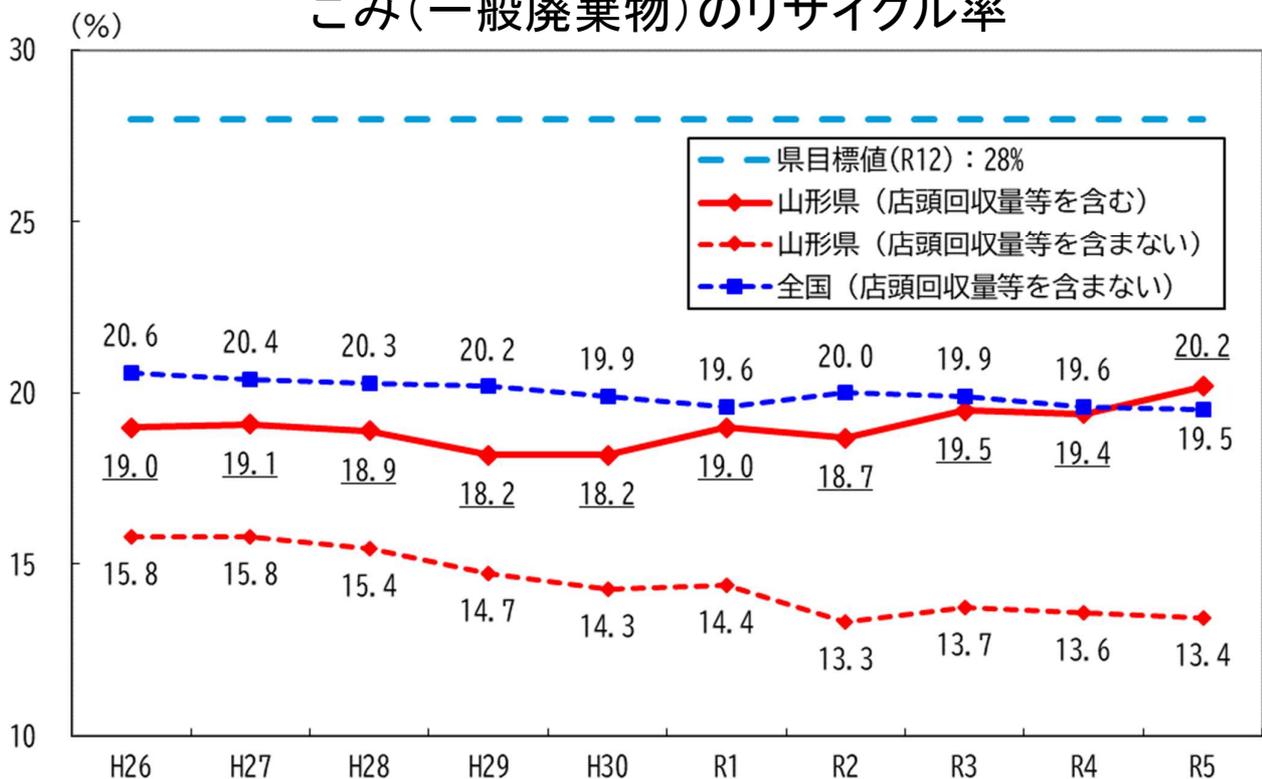
平成28年度以降増加傾向にあったが、令和5年度は前年度からの減少が見られた。引き続き、食品ロスやプラスチック廃棄物削減のための一人ひとりのライフスタイル変革に向けた啓発を継続していく必要がある。

1人1日当たりのごみ(一般廃棄物)の排出量



コロナ禍や災害等の影響による一時的な増減はあるものの、長期的には減少傾向にあり、ごみの削減の取組みの成果が見られている。

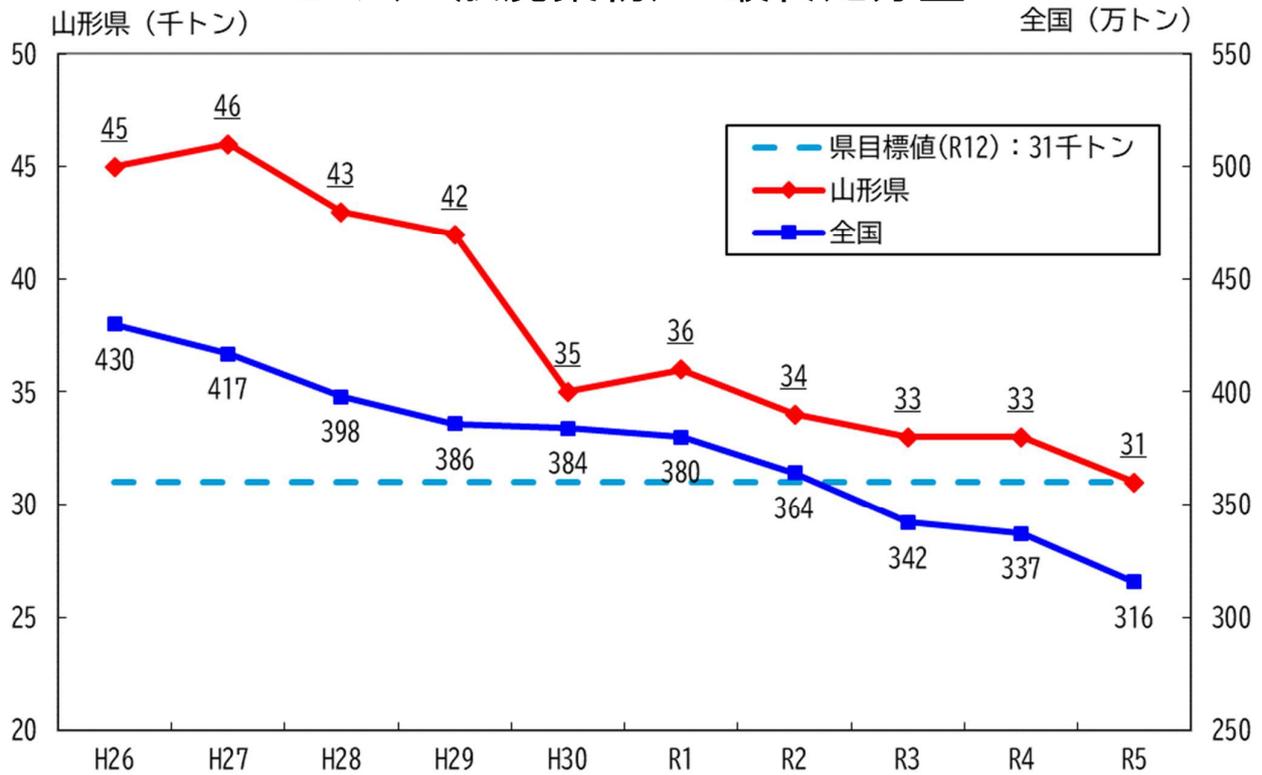
ごみ(一般廃棄物)のリサイクル率



※ 第3次山形県循環型社会形成推進計画では、店頭回収量等を含むリサイクル率を達成指標として管理している。

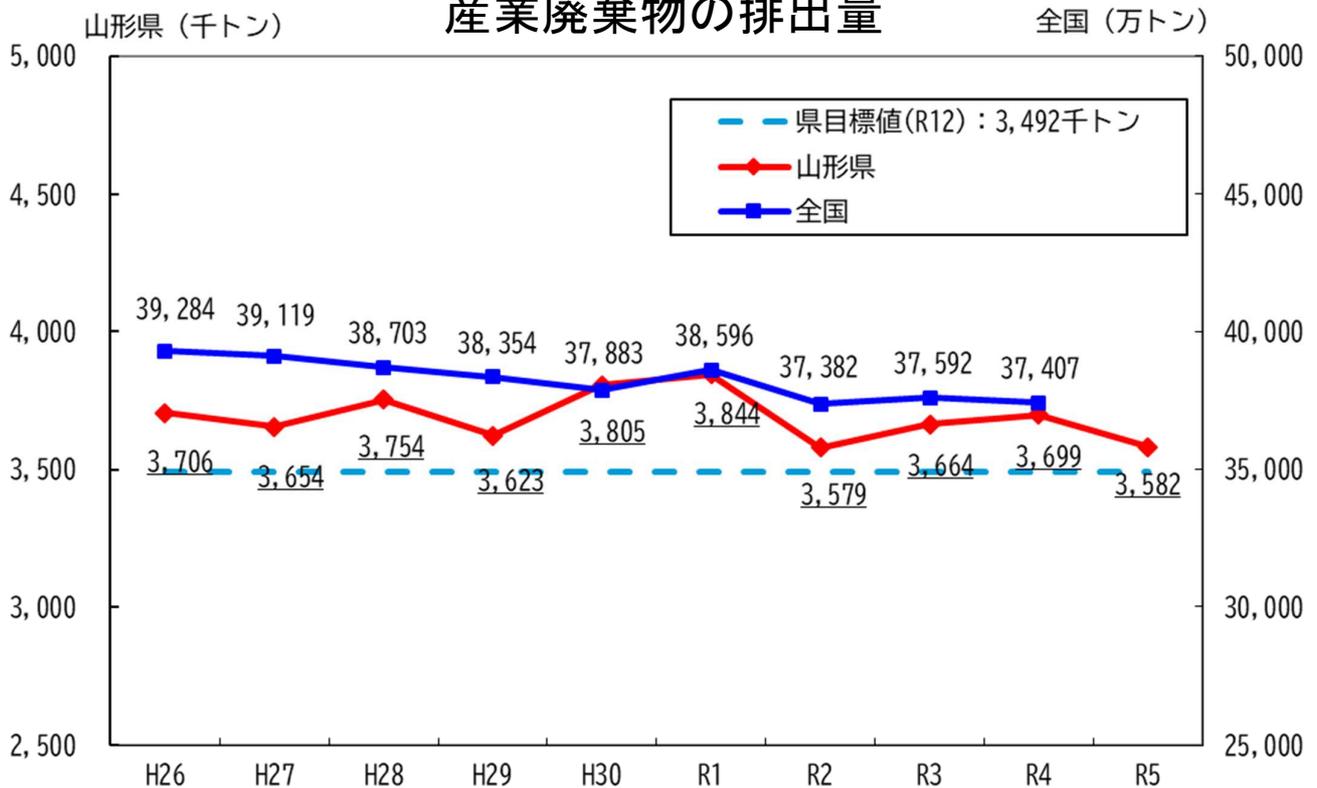
平成30年度の山形広域環境事務組合のごみ焼却施設の更新に伴う焼却残さ(熔融スラグ)のリサイクルの開始に加え、店頭回収量や家電リサイクルルートによる処理量等の増加により、平成29年度以降、リサイクル率は上昇傾向にある。

ごみ(一般廃棄物)の最終処分量



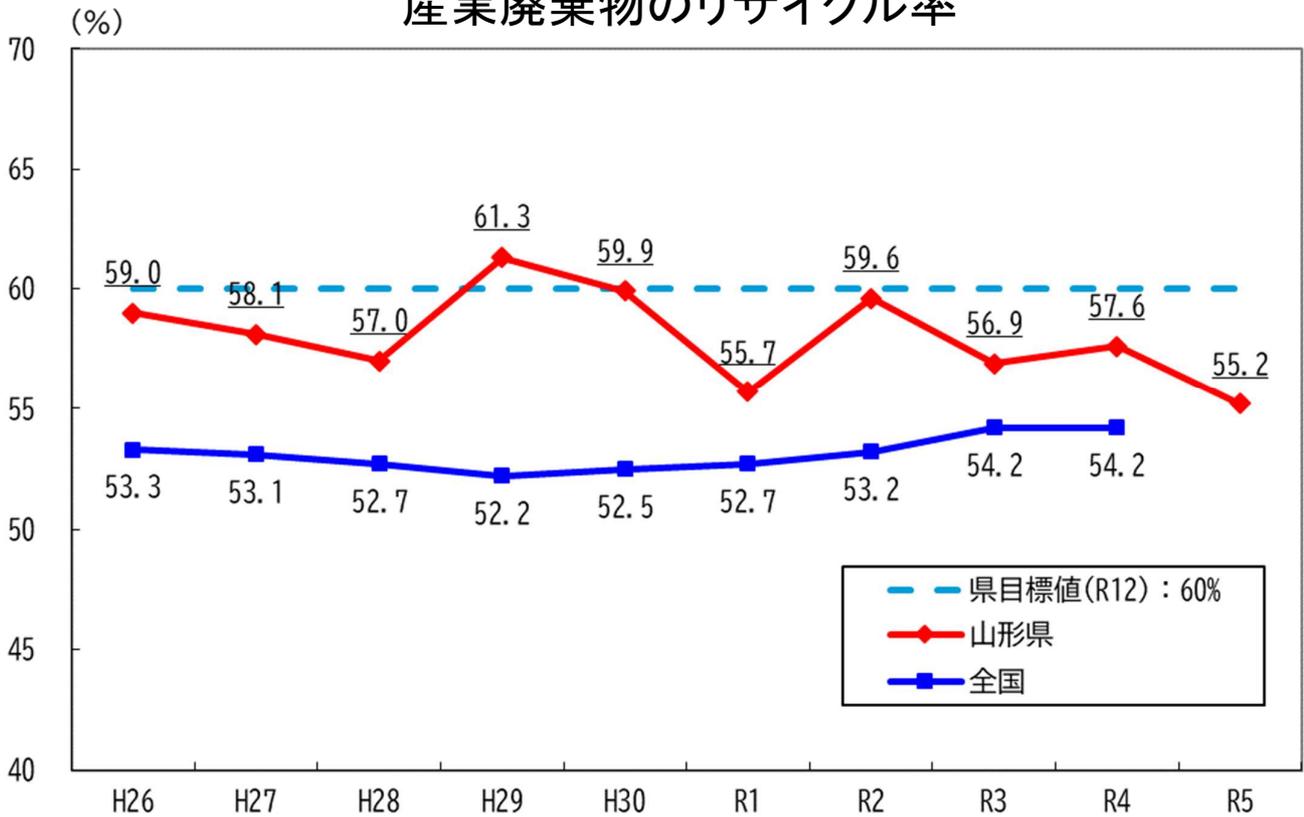
ごみの排出量・焼却量が減少傾向にあることに加え、リサイクル率が上昇傾向にあることから、最終処分量は長期的に減少傾向にある。

産業廃棄物の排出量



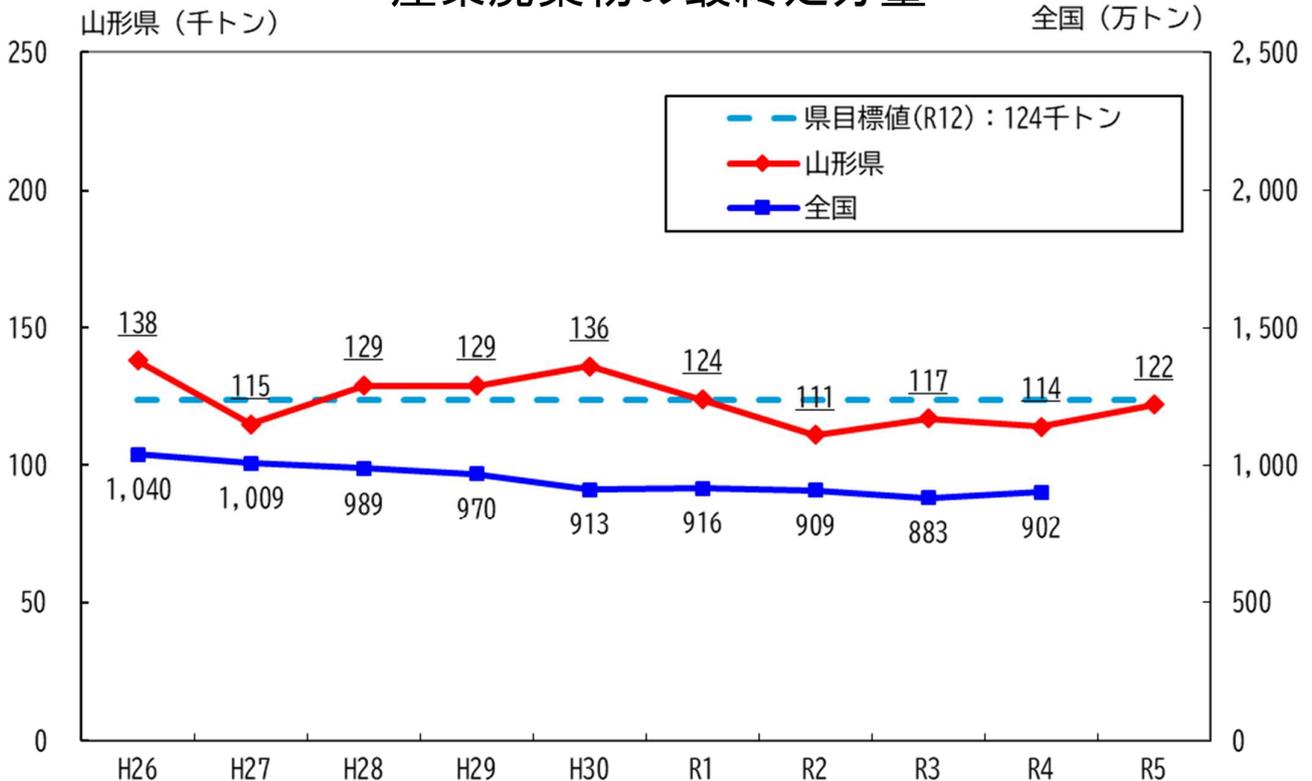
業種や廃棄物の種類ごとに増減の傾向が異なっているが、令和5年度の減少は、建設業からの「がれき類」が減少したことが主な要因となっている。

産業廃棄物のリサイクル率



令和5年度はリサイクル率が高い建設業からの「がれき類」の排出量の減少により、リサイクル率が低下したものと考えられる。

産業廃棄物の最終処分量



平成27年度頃までは、長期的には減少傾向にあったが、それ以降は令和12年度目標値である124千t前後で推移している。